

平成29年度 千葉県高等学校新人サッカー大会 総評

平成29年11月3日から12月2日までの日程で各ブロックによる予選が行われ、平成30年1月20日から2月4日までの日程で県大会が行われた。県大会へは、流通経済大学付属柏・市立船橋の2校を除くシード校48校にブロック予選を勝ち上がった48校の計96校にて行われた。また、本県では日程の関係上、ベスト8までの決定としている。

全てのチームが新チームとなり、各チームの色がどのように出るのかが非常に楽しみな中スタートした。1回戦は主にブロック予選勝ち上がり校同士の戦いが行われ、2回戦からシード校が登場し、3回戦進出チームに与えられる「平成30年度関東大会千葉県予選」への参加出場権を賭け白熱した試合を見せた。1・2回戦では、負けたら終わりのトーナメントということもあり、多くのチームがリスクを最小限にするために、自陣ではボールをつなぐが相手の背後にロングボールを供給していた。3回戦を突破した16校は、チームコンセプトや自チームの選手の特徴、相手チームの分析など非常に多くの要因を踏まえ、現段階での最適な戦い方を選択して大会に臨んでいると感じる。また、技術・戦術が優れていたのはもちろんのこと、80分間コミュニケーションをとり続け、集中力を切らさずに自分や相手と向かい合っていたのが印象的である。

全体的には、まだまだチームとしてのコンセプトを構築している段階や自チームの選手の特徴を発揮する場面の見極めをしているチームが多く見られ、戦術や選手起用を試しながら戦っていた。今後、どのようにチームが成長していくか、非常に楽しみである。近年、各大会において流通経済大学付属柏と市立船橋の2チームによる決勝の組み合わせが続いている。この両チームを脅かすチームの出現と、各チームの育成・強化で、今後の千葉県サッカーがさらに発展していくことを期待する。

多くの関係者の方々の協力により進められた新人サッカー大会であるが、八千代、日本体育大学柏、市立習志野、芝浦工業大学柏、中央学院、翔凜、暁星国際、木更津総合がベスト8に進出した。大会の運営については、2・3回戦における降雪の影響による急な会場変更等、会場役員や審判の方々を始め、多くの方々のご協力によって進められた。大会運営に携わっていただいた全ての方々に感謝の意を表すとともに、各チームが新年度に向けて更に力を付け今後の活躍を期待し、総評とさせていただきます。

千葉県立天羽高等学校
佐藤 誓哉